

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛媛県		市町村名	大洲市		地区名	肱南・肱北地区(第2期)			面積	152ha	
交付期間	令和4年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	1,571百万円		国費率	0.497		

1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 道路(無電柱化)、地域生活基盤施設(眺望広場、街路公園)、高質空間形成施設(ふれあい南通り外1路線照明施設、かわまちづくり整備、動線環境整備)、高次都市施設(地域交流センター)									
		提案事業										
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	なし				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	事業効果分析調査				・内示率低下により、提案事業から削除			影響なし		
	新たに追加し た事業	基幹事業	公園(肱川緑地公園)、高質空間形成施設(無電柱化、おおず赤れんが倉庫周辺整備)				・肱川緑地公園:賑わい創出及び利便性向上を図るため、駐車場、芝生スペース、広場スペースの配置を見直し、芝生植栽、広場舗装を実施するため追加。 ・無電柱化:無電柱化事業の詳細について検討したところ、道路区域・宅地区域に跨って施工する必要がある事となったため追加。 ・おおず赤煉瓦館周辺整備事業:おおず赤煉瓦館は肱南地区における観光まちづくり交流拠点施設として既に機能しているが、駐車場と庭園部分をキッチンカーマルシェなど新たなイベントに活用できるスペースに再生させることにより、更なる賑わいと交流を創出するため追加。			影響なし		
		提案事業	立地適正化計画改定検討				・令和2年10月に作成した大洲市立地適正化計画について、本都市再生整備計画の進捗・成果等を勘案し、評価・改定を行うとともに、本地区を含む立地適正化計画区域内の災害リスクを評価・検討するため追加					
	交付期間 の変更	当 初	令和4年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響							
		変 更	変更なし									







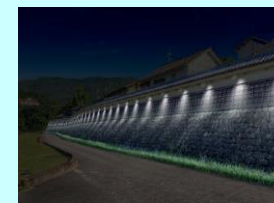

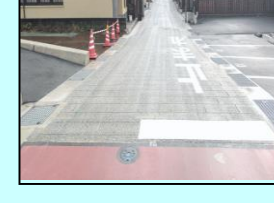

2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
	指標1	観光入込客数	人	203,090	R2	400,000	R7		443,319	○	あり なし	官民連携で進めている「歴史的資源を活用した観光まちづくり」や、国土交通省と連携して取り組んでいる「かわまちづくり」が評価されたことに加え、新型コロナウイルスの影響がなくなったことで、国観光入込客数が増加した。	
	指標2	住民から見た観光地の魅力度	%	54.6	R2	65.0	R7		73.6	○	あり なし	国土交通省と連携して取り組んでいる「かわまちづくり」や、景観に配慮した石畳風舗装、おおず赤煉瓦館周辺のイベントスペース整備などにより、歴史ある町並みの保全と地域資源を活かした観光まちづくりに対する住民の魅力度が向上した。 また、各事業の相乗効果により誘客機能も向上しており、指標の達成に間接的に貢献している。	
	指標3	生活環境に対する満足度	%	27.1	R2	40.0	R7		28.7	×	あり なし	事業費の高騰が、指標未達成の直接的な要因となった。しかし、完成した肱川緑地公園はイベント等で活用されるなど、実施できた事業から得られた効果もあることは評価できる。	R11年度
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		

3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
	その他の 数値指標1	外国人観光客数	人	1,851	R2				45,950			地域住民の評価により、本地域の一定の魅力度は確認できた。一方で、観光地としての対外的な競争力や国際的な認知度を把握するためには、海外からの視点が必要である。このため、海外からの来訪状況を示す指標として「外国人観光客数」を追加の数値指標として設定した。	
	その他の 数値指標2												
その他の 数値指標3													

4)定性的な効果 発現状況	なし												
------------------	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
		住民参加プロセス	肱川かわまちづくり協議会ワークショップ				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				住民主導のまちづくり体制を構築するため、ワークショップの開催を継続し、河川空間を活用した取り組みを行い、新たなプロジェクトへの支援を推進する。			
			持続的なまちづくり 体制の構築					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2－2 地区の概要

肱南・肱北地区（第2期）（愛媛県大洲市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】清流肱川や大洲城などの地域資源を活かした誘客機能の強化、交流の促進を図りつつ、良好な生活環境の創出により快適で住みやすいまちづくりを目指す ①JR伊予大洲駅前や観光施設周辺の快適性向上により、観光誘客の促進を図る ②清流肱川などの地域資源を活用しながら交流人口の拡大を目指す ③住宅地の路面整備や関連事業による残地等の有効活用により居住環境の向上を図る		観光入込客数	単位：人/年	203,090	R2	400,000	R7	443,319	R7
		住民から見た観光地の魅力度	単位：％	54.6	R2	65.0	R7	73.6	R7
		生活環境に対する満足度	単位：％	27.1	R2	40.0	R7	28.7	R7
<div><div><div><p>無電柱化整備事業</p></div><div><p>地域交流センター</p></div><div><p>ふれあい南通り外1路線照明施設整備事業</p></div><div><p>眺望広場整備事業</p></div></div><div><div><p>肱川緑地公園</p></div><div><div>○関連事業 事業主体：大洲市 歴史的風致関連事業 大洲城山公園整備事業</div><div>■基幹事業（道路） 無電柱化整備事業</div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） 無電柱化整備事業</div><div>■基幹事業（高次都市施設） 地域交流センター</div><div>○関連事業 事業主体：国土交通省 肱川橋架け替え・国道56号交差点改良事業</div></div><div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） ふれあい南通り外1路線照明施設整備事業</div><div>■基幹事業（公園） 肱川緑地公園</div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） 眺望広場整備事業</div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） 動線環境整備事業</div></div><div><div>○関連事業 事業主体：大洲市 都市計画道路・若宮東大洲線整備事業</div><div>■基幹事業（地域生活基盤施設） 街路公園整備事業</div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） かわまちづくり整備事業</div><div>■基幹事業（高質空間形成施設） おおず赤煉瓦館周辺整備事業</div><div>□提案事業 立地適正化計画改定検討</div></div><div><div><p>街路公園整備事業</p></div><div><p>かわまちづくり整備事業</p></div><div><p>おおず赤煉瓦館周辺整備事業</p></div><div><p>動線環境整備事業</p></div><div><p>立地適正化計画改定検討</p></div></div></div></div>									

まちの課題の変化

- ・ふれあい南通り外1線照明施設整備事業や動線環境整備事業により、観光客のみならず地域住民の利便性向上に寄与しました。
- ・肱川かわまちづくりの一環としては、かわまちづくり整備事業、肱川緑地公園、眺望広場整備事業を進め、水辺空間における賑わいの創出を図っています。
- ・まちと水辺が融合した新しい交流拠点として、地域住民の相互交流を促し、地域活性化の核となる施設を整備しています。あわせて、おおず赤煉瓦館については、駐車場や庭園部分をイベントに活用できるスペースへと再生し、更なる賑わいと交流の創出を図っています。
- ・立地適正化計画の改定検討を通じて、市民の防災意識を醸成するとともに、国・県・市が一体となった防災まちづくりを継続的に推進しています。
- ・街路若宮東大洲線外1線道路改良事業では、交差点付近に生じた残地を活用し、ポケットパークを整備することで、市民の憩いの場を提供しています。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・肱北地区においては、交流人口の増加を図るため、賑わい創出の核となる地域交流センター（市民文化会館）を整備するとともに、周辺道路（若宮天満線）の拡幅を進め、機能集積の拠点として整備を進めます。
- ・無電柱化や動線環境整備事業に加え、肱川緑地公園にトイレを整備することで、安心・安全で利便性の高い生活環境の向上を目指します。
- ・大洲城下の市民会館跡地には交流広場を整備し、地域住民の快適な生活空間を創出するとともに、来訪者にとっても憩いの場となるよう整備を行います。